



【おうち英語】ライティングにまつわるエトセトラ

近頃は英検でも3級からライティングが導入されていたり、
高校入試でもテーマが与えられた
自由英作文が出題されることも当たり前、
大学入試では言わずもがなで、
ライティングの重要度が増していると感じています。

おうち英語で育った我が子たちの英文添削、
運営するオンライン英語スクールでの英文添削、
高校で講師として大学入試対策としてのライティングを
指導してきた経験から感じている
ライティングにまつわるエトセトラを今回書いてみようかと思います。

よろしければお付き合いください(^^)

目次

おうち英語っ子のライティングの傾向
困難さその1:自分の英語に自信満々
困難さその2:会話調の文章
困難さその3:文法学習にやる気ナシ
英作文は英語力のみならず

■おうち英語っ子のライティングの傾向

おうち英語においては基本的に
「耳」から英語が入ってくる機会が多いものです。
もちろん読むという行為にて「目」からも
英語は吸収されているわけですが、
一文一文一語一語を精読することは稀なため、
文法構造だとか文章構造を気にかけている子はほぼいません。

そのためかなりアウトプットがある子でも、
実際に英文を書かせてみると、

弱音化するところがゴソッと抜けていたり、
文法に致命的なミスがあったり、
スペルミスが盛り沢山だったり、と
試験の採点基準からみれば残念な英文だったりします。

口語中心だった英語を
ブラッシュアップしていく過程で、
もっと俗なことを言い方をすると、
学校英語に合わせて点が取れる英語にしていくためには、
「書く」という行為でこれまで培った英語を
矯正していくということは必要なことだと思っています。

そこで必要となってくることは、
書いて書いて書きまくる量ではなく、
第三者に添削してもらおうということだと思うのですが、
これまでわが子も含め、おうち英語っ子の英文添削に
携わらせてもらった経験から痛切に感じるがあります。

それは【一般の中・高校生の添削指導よりも
おうち英語っ子の初期の英文添削の方が大変】
ということです👉
英文の難易度の話ではなく、別の意味で・・・。
その大変さを具体的にお話していきたいと思います。

● 困難さその1: 自分の英語に自信満々

まず何より英文を書いている本人が自信満々であることです(^_^;
一般の中・高校生などは自分の英語にまったく自信を持っていないため
「自分の英語が間違っていること前提」で話を聞いてくれます。
聞く耳を持ってくれているのでアドバイスも通りやすいですね。

しかし、おうち英語で育った子の場合、
十分にこれまで英語でコミュニケーションすることができてきたという
裏付けある自信を持っているため、自分の英語にかなりの自負があります。

そのため、「この語はこの文脈では使わない方がいいよ。」とか
「これは形容詞だからこの場面では副詞形のこの形になるよ。」と添削しても、
「えー、うそー。そんな風に言う?! 言ったことないけどなー。言わないでしょー。」と

めっちゃ不服そうにすること多々…(^_^;

このセリフはまだ他のお子さんから言われたことなので、
まだまだマイルドですが、わが子なんてもっと強い調子で
自分の正当性を主張してきますからね…(-_-)

かなり頑なな態度で指摘を受け入れるまで時間が掛かったり、
渋々受け入れたとしてもそもそもクセになってしまっているので
何度も同じミスを繰り返すという傾向が見られます…。

自信があることは良いことだと思うのですが、
誰にでも思い込みというものはあるということも受け入れて欲しいなあと思ってしまうのです…

それから、
「ネイティブが話している英語がすべて文法的に正しい」
と思ってしまうのも危険な考えですね。

私たち日本人も話している日本語が完璧であるかと問われれば、
否と即答するように、ネイティブが話す、ネットに書き込んでいる英語には
当然間違いも多く含まれています。

英語の表現で正しいか悩むとき、ネットでまず検索してみるのですが、
一般的な検索を掛けると実際にその表現を使っている人も多くいることが確認できるものの、
ワシントンポストなど主要メディアに掲載されている文献に限って検索を掛けると
その表現は引っかからず、どうもその表現は間違いであるようだと思うこともあります。

今のように情報量が多い時代、
子どもの接している英語が必ずしも正しいわけではないのですね。

そのあたりはライティングなどに書かせて確認する機会を
持つしかないようにも思いますし、子ども自身にも心に留めておいてほしいことだと思っています。

●困難さその2:会話調の文章

次におうち英語っ子に多い英文の傾向は、
会話調でダラダラ長い英文を書いてしまう子が多いところにあります。

一般の学校英語だと SVO 以上の英文に発展していける子が
わずかであるということを考えると、長い英文が書けることは
それだけでも評価したくなるポイントではありますが、
ダラダラとどこまでも繋がってしまう英文は英語としては評価されませんよね。

会話だと会話のテンポが重視されるので、
つらつらとでも言葉を繋げていくことで何とかなってしまうことがよくあるのですが、
その口語口調そのままを英文に書いてしまうとそれは駄文になります。
私なんかは学校英語の世界で長年生きてきた人間なので、
英文は意味を考える前に SVOC だとかどこが主節だの文法ばかりを
気にしてしまうところがあるのですが(それはそれで問題ですが・・・)、
そういう目でおうち英語っ子の英作文を見ると、
文法が完全崩壊しているときもあつたりします。。

どこまで不定詞&接続詞で繋げていくねん!という感じだったり(^へ;

やはり文法を系統的に学ぶ機会をしっかり持って、
元からこういうところを正さしていかなければならないなあと感じるのですが、
次に問題になるのはおうち英語っ子の「文法学習への意欲、意義理解」です。。

●困難さその3:文法学習にやる気ナシ

大学入試・高校入試を目前に控えた娘と息子に
時々自由英作文の採点を頼まれることがあるのですが、
娘と息子が書いた文の中には
根本的に文法が崩壊している英文が点在していることがあります。。

「なんだこれはー!!!」とち
ゃぶ台をひっくり返したくなるくらいすごいのを書いてくることもあり、
この春の結果が今から案じられます・・・(_ _)
二人揃ってサクラチルになってもらおうと私も困ってしまうので、
ちゃぶ台をひっくり返したい気持ちをグッと抑えて、
ダメな理由、この手のミスを再びしないために

必要な文法事項を説明してみるのですが、

【馬耳東風】とはこのことかという態度で
興味なさそうに聞いているのです。

「で、それが何か?(〃_〃)」みたいな態度・・・(-_-)

「だめだ!やっぱりちゃぶ台持ってこい!」という気分になりますが、
わが家にはちゃぶ台がないため買うところから始めないと。

「文法とか細かいことはよくわからないけれど
なぜだか英語がわかっちゃう」という英語に関しては
馬力がある娘の方が、文法に関しては馬耳東風です。(さすが馬)

【補語】なんて娘が高校生になってから
何度説明したか、もう数えられないくらいです。

「補語?!どういうこと?」と毎回新しいことを聞くように聞いている娘を見ると、
「本当に毎回聞き流してやがるな・・・」と
最近はおきらめの境地に私が達してきました。。。
馬に話しかけていると思うことにしています。

娘に言わせると

「日本人が未然形を説明できなくても、
しっかり理解できていなくても、日本語は読めるし書ける」
という論理展開になってくるため、
まあもう娘に関しては我が道を行っていただきたいと思っています。。。。

娘にとってラッキーなことといえば、
従来の大学センター入試よりも娘が受験する共通テストの方が
読解中心になり、細かい文法問題が出題されないことですね。

しかも娘の希望校には二次試験の英語も読解中心で
英語のライティング問題がないという超ラッキーガール。ということで娘は放置です💧

娘ほどではないかもしれませんが、
中高生になったおうち英語っ子の文法に対する姿勢は
私の耳に入ってくる範囲では傾向としては同じだなあと感じています。

おうち英語っ子で

「文法が大好きで文法をガンガン勉強しています」

という方の話はあまり聞いたことがありません。

どちらかというと、

娘と同じく馬力でなんとかするため文法学習に消極的で、

それを見守るママさんたちも

ちゃぶ台ひっくり返したい衝動を堪えておられるとかいないとか。(憶測書くな)

英語力に関しては娘と比べて馬力が劣る息子の方は、

案外文法を細かく知りたがる傾向にあります。

元々の性格が屁理屈野郎なので、

理屈に合わないことは嫌な性分なのでしょうね。

でもだからといって嬉々として文法学習をするということではなく、

自分の屁理屈の優位性を主張してくることに懸命になっているように思われます。

要は私のことを疑っているのではないかと・・・(-_-)

性格と馬力によって、おうち英語っ子だからと一括りにはできないものですが、

基本におうち英語っ子が文法学習に淡泊という傾向はあるように感じております。。

いろいろと書いてはきましたが、

一般の中高校生に比べると、おうち英語っ子にとって

<書くということへの心理的ハードル>が絶対的に低いことは間違いありません。

書かないことには始まらない英文添削ですが、

通常の中高生は書きたくても鉛筆が進まないのが現状ですから、

文法に多少の誤りがあっても、口語口調で漫然としていても、

指摘を頑なに受け入れなくても、

十分アドバンテージを持っていることは間違いのない事実です。

そこはポジティブに受け入れていいなと私は思っているところです。

そして、細かな間違い云々を指摘する前に

「書こうと思うことがある」

ということにまず感謝したいなと思っています。

■英作文は英語力のみならず

おうち英語というのは限られた環境で、
日本語と英語の二足の草鞋をずっと履き続けていくようなものです。

時に英語というスニーカーの方が履き心地がいいからとか
カッコイイからとかの理由でそちらだけを履きたくってしまうこともありますが、
それは思考力を司る母語を育てるために絶対に避けなければならないことだと
私は自戒してきました。

18年おうち英語を続けてきて、
二足の草鞋をバランスよく履き分けることができきたかと言われれば、
日本語の草履の方が明らかに履き込んであって英語の方はまだ履き込んでいない感があります。

子どもたちの英作文に感じる文法&語彙チョイスの齟齬も
そんなところに原因があるのかもしれない。

しかしもとよりわが家の目標は偏重バイリンガルであり、
日本語比重が高めが最終目標であったため、
これで良かったのかなとも思っております

書くという行為は言語能力のみで完結するものではなく、
思考のプロセスを文字に書き起こしていくという要素が強いため、
思考力云々が問われることは言うまでもありません。

思考力が十分に育っていないと人に納得してもらう文を
英語でも日本語でも書くことができません。

ライティングの土俵にも立てないことになってしまいます。

英語にミスがあるとかそういうことよりも

「何を書いたらいいかわからない。」
「普段から何も深く考えておらず自分の意見がない。」

ということの方がよっぽど深刻です。

現に小さいころから英語をやっていない後発組の子でも
十分な思考力が育っている子は、多少たどたどしくとも、

語のチョイスが不自然であっても、
人の心を掴む英文エッセイが書けたりするのですよね。

書くことだけでなく、話すことも同じかと。

「何を語るか」

英語が「正しいこと」「美しいこと」に越したことはありませんが、
そればかりを追い求めるのもまた違うのですよね。

もちろんわが子の思考力に関してもまだまだのところがあり、
そこはそこで別にテコ入れをする必要はあると感じています。

わが子のライティングを見るたびに

「立派な意見が述べられる賢い子に育っていない・・・」と

嘆きたい部分が多くありますが、

方向性を示すことで考えようとするだけの思考力ベースの日本語は

育っていると思うので(思いたい)、

考える機会というのを日本語でも英語でも小論文やエッセイなどを通じて

与えていきたいと思っていますところです。

わが子だけでなく、

運営するオンライン英語スクールでも

私のフォニックス講座を受講してくれているお子さん方の

英文添削をさせてもらっていますが、

フォニックス・文法ルールも意識してもらいながらも

伸びやかに自分を表現してもらいながら思考力も伸ばしてほしいなあ(欲張り)・・・

と思っている今日この頃です。

・・・自分の子にもそうやって優しくなれないとダメですね(^^;

外面が良いところ直さない〜。

家でもちゃぶ台ひっくり返さず、包容力をもって見守りたいものです。反省、反省。。